

わたしがもういちど 看護師長をするなら

坂本すが＝著

定価1575円(本体1500円＋税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657



この本のタイトルを見たら、世の看護部長はきつと飛びつくに違いない。実際、福岡県での第16回日本看護サミット2011の会場では、あつという間に100冊が売り切れてしまったと聞く。たしかに、看護部長たちと話す、「師長のときが、いちばん楽しかった」とか、「もう一度師長をしたら、こんなことがしたい」という言葉をよく耳にする。私自身も、現在は看護局長という立場にもかかわらず、看護部長から相談を受けたときや病棟の課題を発見したときに、自分がその病棟の師長をやりたいと思う瞬間がある。だから、この本は看護部長には自分の部下に薦めたいと、非常に共感を呼ぶであろう。

さて、このように考えると、本書は病棟師長が読む本だと捉える人が多いと思う。本書を知っても、訪問看護管理者は「きつと病院の看護師長へのアドバイス」が書かれているのだから、あまり自分たちに関係のない本だ」と決めつけてしまうのではないだろうか。たしかに病棟で師長として取り組んだことが、実践例としていくつも述べられている。当院の師長・副師長たちは私の推薦によりこの本を購入したのだが、業務改善や後輩指導などの参考になるだろうと考える。

ところが、実は訪問看護管理者にぜひ読んでいただきたいのである。

訪問看護管理者こそ、看護師である 幸せと管理者としての喜びを感じて

では、どう読むか？ 訪問看護管理者にはまず「第4章 政治のなかにある看護 生活のなかにある看護」から読んで、本書に親近感をもつていただきたい。私は、訪問看護は看護のなかでも「生活のなかの看護」のもっとも象徴的な領域であると考える。同時に、医療保険と介護保険双方の枠組みに含まれ、在宅医療推進の流れなど、政治から直接的な影響を受けるという意味で、「政治のなかにある看護」としても最前線分野だと考える。

る。この章から、著者が訪問看護に高い関心を寄せ、訪問看護の標準化と普及に強い信念をもっていることが伝わり、私も勇気づけられた。これは全国の訪問看護師も同じではないだろうか。

4章を読んだあと、著者が「はじめに」でどこからでも読める「構成にした」と述べているように、自分が管理者として悩んでいること、壁にぶつかっていること、そういったことに近い箇所を、目次から選んで読むのはどうだろうか。人材マネジメントとタイムマネジメントの部分は、きつと訪問看護管理にすぐに役立つだろう。「第1章 組織マネジメント」では、訪問看護管理者が自分の職場で応用するには若干イメージがわきにくい部分があるかもしれない。そのようなときは、目次に戻って見出しの言葉を、あたかも自分の上司からの言葉として受けてみてほしい。

著者は、本書全体を通して、看護が素晴らしい仕事であることを繰り返し伝えている。看護管理者も幸せな仕事だと述べている。訪問看護管理者は、看護師である幸せと管理者としての喜びを、病棟師長よりも濃厚に共有できる羨ましい仕事である。忙中閑あり。忙しい時間を止めて本書を読み、それを実感してほしい。